

MAJ NEWS



Volume 13

2021

The Milton Association of Japan

MAJ News

Volume 13

2021

The Milton Association of Japan

Editorial Board

Editor-in-Chief: Go Togashi

Editor: Yukari Matsumura

Cover Illustration:

The Poetical Works of John Milton with a Life of the Author by William Hayley. London: W. Bulmer and Co. for John and Josiah Boydell, 1794-97.

Contents

第 11 回 研究大会 発表要旨

Proceedings of the Eleventh Annual Conference

研究発表 Papers

宗教詩における「あなた」と「私」

西川 健誠

1

稀覯本としての Boydell 版 *The Poetical Works of John Milton*
John Boydell's *The Poetical Works of John Milton* as a Rare Book

加藤 遼子

2

日本ミルトン協会規約

The Articles of Organization of the Milton Association of Japan

5



Proceedings of the Eleventh Annual Conference
Online (Zoom), December 12, 2020



研究発表
Papers

宗教詩における「あなた」と「私」*

西川 健誠

神が人格神であるなら、それは信仰者から「あなた」と呼びかけられる存在たる事を意味する。とすれば宗教詩での「あなた」「私」という代名詞の用いられ方は、神と語り手との関係のインデクスとなろう。以下、ダン、ハーバート、ミルトンの作品中の「あなた」「私」の使われ方を考察したい。

ダンのソネット「私の心を強打し給え、三位一体の神よ」(“Batter my heart, three-person'd God”)では、自らの墮罪に絶望する「私」が、神に向かい、一方的かつ受動的に浄化される事を祈願する。この祈願の一方性は、14行中「私」という代名詞が14回、うち9回は目的格(me)で登場している事に現れている。ソネット中の各文の構造を見ても、「私」と「あなた」の二語が直説法の動詞を挟み、正常な主客の関係で並ぶ例はほぼない。ジャンル論的に見れば、男性から女性への一方的思いを語る器であったソネットが、信仰者から神への一方的な思いを伝える器に変化しているともいえる。

ダンのソネットが神たる「あなた」と信仰者の「私」の交わりの不成立を伝えるなら、ハーバートの「握手」(“Clasping of Hands”)は理想的な人神関係において実現する「私」と「あなた」の交わりを言祝ぐ。第一連ではキリストへの自我奉獻による信仰者の罪からの解放の教義が、第二連では、この解放の前提となるキリストの受肉・受難による自己放棄の教義が、語られる。こうしたいわば自我の「交換」による救済を語るにあたり、「交換」の概念が、「私(のもの)」「あなた(のもの)」という二語の行中や脚韻部におけるキアズマ的=交差的配置を通じ、視覚化されている点が目を引く。

ミルトン『楽園喪失』第10巻914-936行では、「私にのみ(神の罰が下りますよう)」[935]「ひとえに神の罰を受けるのに相応しい私、この私」[936]という、イヴによる「私」の繰返しが見られる。この「私」の繰返しに、ある種の egotism をなすとは出来まい。だがこうした自己犠牲の文脈での「私」の繰返しは、第3巻、父なる神に、自らの受難による人間の贖罪を申し出る御子の言葉[236-7]にも現われていた。後にアダムとの和解、さらに神への改悛の祈りが続いている事を鑑みれば、イヴのアダムに向けての「私」の繰返しは、御子による「私」の繰返しを意識せざる内に範とした、夫婦間の、そして神人間の交わりの回復に連なる行為と解せないか。

神と人との交わりの不成立を語るか。両者の交わりの実現を言祝ぐか。伴侶への呼びかけが神への呼びかけと繋がるか。宗教詩における「あなた」「私」の用いられ方は、信仰者と神との関係の多様な姿を映し出す。

*発表概要から変更はありません。

稀覯本としての Boydell 版 *The Poetical Works of John Milton*
John Boydell's *The Poetical Works of John Milton* as a Rare Book

加藤 遼子

1. 概要

The Poetical works of John Milton. With a life of the author, by William Hayley (以下、Boydell 版とする。) は、1794 年から 1797 年にかけて、John Boydell (1719-1804) とその甥 Josiah Boydell (1752-27) により出版された、John Milton (1608-1674) の作品および銅版画で作成された挿絵を収録した稀覯本である。この本はフォリオサイズで作成され、内部に使用された紙は厚く上質なワットマン紙である。本発表では、Boydell 版が作成された社会的背景および収録されている挿絵の一部について考察した。

Boydell 版の制作を指揮した John Boydell (以下、Boydell とする。) は、自身も彫刻家であり、主に銅版画の技法を用い作品を制作していた。さらに、彫刻家としての顔だけではなく、様々な事業に取り組む実業家でもあった。この当時、18 世紀半ばから後半にかけて、英国では、劇作家である William Shakespeare (1564-1616) がナショナリズムの高まりと関連づけられ、多くの起業家が Shakespeare に目を付け、自らの商売に利用していた。Shakespeare は、芸術的な趣味に誇りを持っていた社会的なエリートに対してだけでなく、新興中産階級にも訴える存在としてみなされていた。この当時における Shakespeare の人気は、口から口へと情報伝達が行われる口頭文化から、文字を見て情報を得る活字文化への変化の加速と一致した。そして、Boydell もその他の企業家と同様に、Shakespeare の戯曲の版画を作成し、出版することとした。Boydell は Shakespeare の劇作品の版画を作成するにあたり、費用を惜しむことはなかった。Boydell は今までに存在していた学術的な書籍とは異なり、その当時、最も著名であった画家や彫刻家を起用し、作品に基づいた版画のフォリオを作成することとした。デザインにこだわるだけでなく、専用の新しい書体を開発したり、印刷所、型を鋳造するための鋳造所、さらにはインクを作るための工場も設立したりした。Shakespeare の版画で成功を感じた Boydell は、Shakespeare だけにとどまらず、自国の偉大な作家たちの作品を新たに編集し、版画を作成することとした。そこで Boydell が新たに目を付けた作家のひとりが Milton であった。Boydell は Milton の作品を集め、1794 年から 1797 年にかけて、*The Poetical works of John Milton. With a life of the author, by William Hayley* を全 3 巻で作成したのであった。しかし、フランス革命の影響も受け、Boydell は以前のように高い芸術性を求めるといよりも、より低い賃金で働く芸術家たちを雇うようになり、Shakespeare や Milton 全集といった収益率の低い作品の制作をすることは困難となった。ロンドン市長まで勤め上げた Boydell であったが、亡くなる際には資産がほぼない状態だったと言われている。しかし、Boydell が作成を指揮した作品たちは後世、特に 19 世紀の Shakespeare 演劇に大きな影響を与え、改編を加え何度も再発行された。

Boydell が 1794 年から 1797 年にかけて制作を指揮してきた、*The Poetical works of John Milton. With a life of the author, by William Hayley* は全 3 巻で構成され、William Hayley (1745-1820) による Milton の伝記をはじめ、*Paradise Lost*, *Paradise Regained* だけではなく初期のラテン語詩等、多くの作品が網羅されている。その中で挿絵は全部で 32 作品収録されている。挿絵のすべてはその当時の著名な画家と彫刻師によって、銅版画の技法で制作されている。本の一番初めにある

Hayley による *The Life of John Milton* に付随している Milton 10 歳の時、21 歳の時、そして 62 歳の時の肖像画や Milton の 2 人娘が口述筆記している場面以外は、すべて Richard Westall (1765-1836) がデザインした作品が収録されている。銅版画に限らず木版画も、版画の場合、彫刻師 (Engraver) も重要である。各挿絵にはデザインをした画家の名前のみならず、同じように彫刻を施した彫刻師の名前も記してある。一見するとデザインをした画家の方に目が行きがちではあるが、版画挿絵において彫刻師という存在は作品のクオリティを左右する重要な役割を担っている。画家の書いたデザインを忠実に彫る彫刻師の存在が版画挿絵において重要な存在であることが、彫刻師の名前も画家と同じように記載されていることからわかる。

次に、Boydell 版の中から一番多く収録されている *Paradise Lost* の挿絵に焦点をあて、Westall と他の画家を比較していく。Boydell 版の Westall による *Paradise Lost* の挿絵は、1 巻につき 1 枚の挿絵、つまり全体で 12 枚の挿絵が描かれている。挿絵の下には「巻数・行数・引用された 1 文が引用され、その場面がすべて Westall によりデザインされ、彫刻師によって彫刻され、摺師によって作成されている。Westall 以外の画家として、今回は、John Martin (1789-1854)、Gustave Doré (1832-1883) の 2 人の *Paradise Lost* の銅版画との比較をする。各々が活躍した時期は少しずれているが、3 人とも 1700 年代後半から 1800 年代後半にかけての 100 年間の間に活躍した画家である。ひとことに *Paradise Lost* の挿絵といっても、画家の裁量で印象が大きく変わることがよくわかる。Adam と Eve が楽園を追放される場面を比較してみると、Westall は泣き崩れそうな Eve ともう姿を見ることのできない天使、そしてエデンの園を名残惜しそうに見ている Adam を描いている。Martin はエデンの園から出た Adam と Eve を待ち受ける過酷な未来を予言するような険しい岩をドラマチックに描いている。それに対し、3 人の中で最も新しい画家である Doré はエデンの園を出るように促す Michael を背景に、泣き崩れ Adam に寄りかかっている Eve とエデンの園を目に焼き付けようとする Adam の姿が描かれている。このように「楽園からの追放」という同じテーマ、そして同じ Milton の *Paradise Lost* という同じ作品から着想を得たとしても、画家の解釈によって重要視している箇所が異なる。それは画家自身の信条や環境、その当時の社会情勢が関係していると思われる。さらに各画家別に描いた場所・そして登場人物の数を見てみると、全体数では Westall は 12 枚、Martin は 24 枚、Doré は 50 枚書いている。勿論、挿絵は *Paradise Lost* に描かれている場所を中心に描くのが基本である。そのため、必然的に本文においても登場回数が多いエデンの園を挿絵で描く機会が一番多くなる。注目すべきは、Doré の「地球」に対する描写の多いことである。この場合、地球というのはエデンの園以外の場所を指す。Doré や Martin は Westall の様に 1 巻につき 1 枚という制限がないため、巻によって挿絵の数のばらつきがあり、自分の意志で描きたい場面・場所・人物を多く書くことができたと推測できる。同じように登場人物たちの数を比較してみると、どの画家も Adam よりも Eve を多く描く傾向にあるのは蛇に誘惑される場面があるからだと思われるが、注目すべきは Doré の Satan の描写の多さである。Westall や Martin と比べても圧倒的に Satan の占める割合が多いことが見受けられる。このように、本来、文字でしかない Milton の *Paradise Lost* を視覚的に具現化する際には、必ず画家の意図が介入し、作者 Milton の意図と画家の意図が作品内で混ざり合っている。挿絵は作者の意図にさらに画家に意図が加わることで、本文解釈から、さらに別の次元から作品を見ることが可能だと考える。この挿絵に現れる画家の解釈には画家自身の意図だけではなく、その当時の社会的影響や、パトロン・雇い主による指示も多く影響していることは間違いない。今後は、Milton の本文への歴史的・社会的な流れを中心に、稀覯本である Boydell 版が、歴史が移り変わるにつれ、どのように人々に受容され、また衰退していったのかを詳しく研究していきたいと思う。

2. 引証資料

Bruntjen, Sven H. A. *John Boydell, 1719-1804: A study of art patronage and publishing in Georgian London*. New York: Garland Pub. 1985. Print.

Milton, John. *The poetical works of John Milton. With a life of the author by William Hayley. Volume 1 of 3*. Ed. John and Josiah Boydell. 1794. Print.

---. *The poetical works of John Milton. With a life of the author by William Hayley Volume 2 of 3*. Ed. John and Josiah Boydell. 1795. Print.

---. *The poetical works of John Milton. With a life of the author by William Hayley Volume 3 of 3*. Ed. John and Josiah Boydell. 1797. Print.

Pointon, Marcia R. *Milton & English Art: A study in the pictorial artist's use of a literary source*. Manchester: Manchester UP, 1970. Print.

コリンズ, A. S. 十八世紀イギリス出版文化史 作家・パトロン・書籍商・読者』, 青木健、榎本洋訳. 彩流社, 1994. Print.

日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会 (The Milton Association of Japan) と称する。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター (The Milton Center of Japan, 1975 年 7 月 18 日－2008 年 3 月 31 日) の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. 機関
 - (1) 総会
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
 - (2) 運営委員会
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
 - (3) 事務局 事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
 - (4) 企画委員会
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
 - (5) ホームページ委員会
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
 - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
 - (1) 会費
会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員は 1,000 円とする。
 - (2) 会計監査
会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。
 - (3) 若手支援
学生会員が研究発表を行う場合、1 万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。
8. 規約の改正 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。
9. 設立年月日 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。
10. この規約は、**2008 年 4 月 1 日から施行する。**

付則 役員を選出ならびに所在地

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学文学部 笹川渉研究室

2008 年 4 月 1 日

2012 年 4 月 1 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

2015 年 12 月 5 日改正

2017 年 12 月 9 日改正

The Articles of Organization of the Milton Association of Japan

1. STYLE

This association styles itself as the Milton Association of Japan (MAJ).

2. AIM

MAJ, as its predecessor the Milton Center of Japan, aims to develop the studies of the seventeenth-century English poet John Milton.

3. ACTIVITIES

In order to achieve the aim above, MAJ conducts the following activities:

- (1) Annual conference
- (2) Colloquium
- (3) Public relation activities
- (4) Other related activities

4. MEMBERSHIP

Anyone who is willing to share the aim above is eligible for membership.

5. EXECUTIVE STAFF

MAJ has the following executive staff:

- 1 President
- 1 Bureau Chief
- 2 Bureau members
- 6 Planning Committee members
- 2 Website Planning Committee members
- 2 Financial Auditors

6. ORGANIZATION

- (1) General Meeting: MAJ's highest decision-making body, whose chair is the President.
- (2) Steering Committee: Consists of the President (the chair), the Bureau Chief, Bureau members, Planning Committee members and Website Planning Committee members, and considers how to conduct MAJ's activities.
- (3) Bureau: Prepares publications; handles financial and other matters.
- (4) Planning Committee: Makes plans for annual conferences and colloquia.
- (5) Website Planning Committee: Creates and runs MAJ's website.
- (6) Advisers: Called in when necessary.

7. FINANCE

- (1) Membership fee: ¥5,000 (¥1,000 for student members)
- (2) Financial Audit: Made once a year and reported to the Steering Committee and the General Meeting.
- (3) Support for student researchers: Up to ¥10,000 is paid for the travel cost from their home or university to the site of annual conference or colloquium when they make a

presentation.

8. CHANGES TO THESE ARTICLES

Must be proposed to the General Meeting and approved by a majority vote of those present.

9. The date of foundation of MAJ is April 1, 2008.

10. These articles come into force on April 1, 2008.

ADDENDA

- (1) The President is recommended by the Steering Committee and elected at the General Meeting. The tenure is three years, and there is no reappointment.
- (2) The President appoints executive staff after consulting the Steering Committee.
- (3) The Bureau Chief is appointed from MAJ members by the President and approved by the General Committee. The tenure is three years and the term limit is two terms (six years). Bureau members are appointed from MAJ members by the President and approved by the General Committee. The tenure is three years and the term limit is two terms (six years).
- (4) Planning Committee members are appointed from MAJ members by the President and approved by the General Committee. The tenure is three years and the term limit is two terms (six years).
- (5) Website Planning Committee members are appointed from MAJ members by the President and approved by the General Committee. The tenure is three years and there is no term limit.
- (6) Financial Auditors are appointed from MAJ members by the President and approved by the General Committee. The tenure is three years and there is no reappointment.
- (7) The location of the MAJ's office is as follows:
 - 4-4-25 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo 150-8366
 - Faculty of Letters, Aoyama Gakuin University
 - Wataru Sasakawa's Office

Revised April 1, 2012

Revised April 1, 2014

Revised December 5, 2015

Revised December 9, 2017